

作成日	2015/7/13
改訂日	2018/7/1

# 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

製品名 : マグナトロン蛍光磁粉 SY-7500WS-3  
 (インスタント磁粉)  
 会社名 : 栄進化学株式会社  
 住 所 : 茨城県常総市 内守谷町 4689-1  
 担当部署 : 茨城工場 化学技術課  
 電話番号 : 0297-27-9507 (緊急時連絡先)  
 FAX 番号 : 0297-27-9508  
 整理番号 : SMF-046-05  
 推奨用途及び使用上の制限 : 磁粉探傷試験用 蛍光磁粉

## 2. 危険有害性の要約

### 【GHS 分類】(分類されないもの、及び区分外は省略)

物理化学的危険性 : -  
 健康に対する有害性 : 急性毒性 (吸入: 粉じん) 区分 4  
 : 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 1  
 : 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) 区分 2 (胃破裂)  
 環境に対する有害性 : -

### 【GHS ラベル要素】

絵表示 :



注意喚起語 :

**危険**

危険有害性情報 :

吸入すると有害 (粉じん)  
 重篤な眼の損傷  
 臓器 (胃破裂) の障害のおそれ

注意書き :

- 《安全対策》
- ・ 全ての安全注意 (SDS 等) を読み理解するまでは取り扱わないこと。
  - ・ 容器を密閉しておくこと。
  - ・ 粉じんを吸入しないこと。
  - ・ 取扱い後は手等の汚染箇所をよく洗うこと。
  - ・ 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
  - ・ この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
  - ・ 必要なとき以外は、環境への放出を避けること。
  - ・ 必要に応じて保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 《応急措置》
- ・ 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移動し呼吸しやすい姿勢で休息させること。
  - ・ 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。
  - ・ 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを装着していても容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。
  - ・ ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。
- 《保管》
- ・ 容器を密閉して、換気の良いところで施錠して保管すること。
- 《廃棄》
- ・ 内容物や容器は、国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

### 【その他の危険有害性情報】

- ・ 危険有害な分解生成物 : 火災時に刺激性、毒性のガス、有毒なヒュームを発生するおそれがある。酸と接触すると分解し、毒性のガスを生じる。
- ・ 皮膚に付着した場合 : 長時間、粉末や高濃度の液が眼や皮膚に接触すると、アルカリ潰瘍を引き起こし、組織を破壊する恐れがある。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物(磁粉 50%, 分散剤 50%)

化学名(成分名)	含有量(wt%)	CAS No.	化管法* <sup>1</sup>	化審法* <sup>2</sup> (既存)	安衛法* <sup>3</sup>	
磁粉	酸化鉄粉	37~42	非公開	非該当	非公開	192
	有機蛍光顔料	5~15	非公開	非該当	非公開	非該当
	接着剤	0~3	非公開	非該当	非公開	非該当
分散剤	非イオン界面活性剤	1~10	非公開	非該当	非公開	非該当
	中性消泡剤(非結晶シリカを含む)* <sup>4</sup>	2~10	非公開	非該当	非公開	非該当
	無機白色微粉末(非結晶シリカ)* <sup>4</sup>	0~5	非公開	非該当	非公開	非該当
	防錆剤A	1~10	非公開	非該当	非公開	非該当
	防錆剤B	1~10	非公開	非該当	非公開	非該当
	防錆剤C	1~10	非公開	非該当	非公開	非該当
	分散助剤A	1~10	非公開	非該当	非公開	非該当
	分散助剤B	10~20	非公開	非該当	非公開	非該当
	分散助剤C	5~15	非公開	非該当	非公開	非該当

- \* 1 化管法 : 化学物質管理促進法=PRTR法における分類及び政令番号
- \* 2 化審法 : 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律における分類及び官報公示整理番号
- \* 3 安衛法 : 労働安全衛生法 施行令 第18条の2別表第9(名称等を通知すべき有害物)の政令番号
- \* 4 非結晶シリカ : 労働安全衛生法 施行令 第18条の2別表第9の政令番号に該当しない  
(2017年8月3日施行)

### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 粉じんを吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。直ちに医師の指示をあおぐ。
- 皮膚(又は毛)に付着した場合 : 直ちに、すべての汚染された衣服を脱ぎ多量の水と石鹸で洗う。  
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯をする。  
皮膚刺激を生じた場合は、医師の診断/手当を受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な流水で十分に洗い流し、次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低15分間以上洗浄し、医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 誤って飲み込んだ場合には、口をすすぐこと。安静にして直ちに医師の診断を受ける。

### 5. 火災時の措置

- 消火剤 : 水噴霧、粉末、泡沫、炭酸ガス、乾燥砂などの消火剤を使用する。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水(本混合物が溶けた水溶液があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こす恐れがある。)
- 特有の消火方法 : 消火水は汚染を引き起こすおそれがある。  
火災時に刺激性、毒性のガス、有毒なヒュームを発生するおそれがある。  
容器の周辺で火災が起きた場合は、速やかに容器を安全な場所に移動する。  
消火活動は距離を充分とること。  
初期の火災には、水、粉末、泡沫、砂などを用いる。また、水は、周囲への延焼防止か冷却にも使用する。  
燃焼による可燃性ガス、有毒ガスなどの発生、酸欠、高温になる恐れがあるため適切な保護具を使用する。  
風下に人を近づけない処置を行い、退路を確保の上、風上より消火活動を行う。
- 消火を行う者の保護 : 火災規模に応じて、消火活動に危険を伴う場合は、速やかに退避する。

### 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時処置 : 必要な部署に通報し、応援を求める。  
漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
作業の際には、適切な保護具(保護手袋、保護マスク、ゴーグル等)を着用する。  
室内では換気をしっかり行う。屋外の場合は、出来るだけ風上から作業を行う。  
着火源・高温体及び付近の可燃物を取り除く。  
着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
- 環境に対する注意事項  
封じ込め及び  
浄化の方法及び機材 : 河川、下水、土壌等に流出されないように注意する。  
漏洩物は、密閉できる空容器等に回収し、安全な場所に移す。  
付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。  
少量の漏洩物は、掃き集めて密閉容器に回収し、後で廃棄処理する。湿らせてもよい場合は、粉じんの発生を防ぐために湿らせてから回収する。
- 二次災害の防止策 : 排水溝、下水道、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 「8. ばく露防止及び保護処置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
  - 局所排気・全体換気 : 「8. ばく露防止及び保護処置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
  - 安全取扱注意事項 : 換気の良い場所で作業を行う。容器はその都度密閉する。  
漏洩させないようにするとともに、みだりに蒸気を発生させない。  
吸入・接触による災害を避けるために必要に応じて適切な保護具を着用する。  
適切な換気設備を使用し、環境濃度の管理を行う。
- 接触回避 : 「10. 安定性及び反応性」を参照
- 保管 : 漏洩の防止。容器を密閉して、換気の良い涼しい所に保管する。  
雨水・直射日光を避け、錆の発生しやすい所に置かない。
- その他 : 高温にならないような処置をとる。

### 8. ばく露防止及び保護措置

化学名 (成分名)	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH
酸化鉄粉	3.0 mg/m <sup>3</sup> (粉じん)	第2種粉塵 吸入性粉じん 1.0 mg/m <sup>3</sup> 総粉じん 4.0 mg/m <sup>3</sup>	5mg・Fe/m <sup>3</sup> (2005年版)
有機蛍光顔料	設定なし	記載なし	記載なし
接着剤	設定なし	記載なし	記載なし
非イオン界面活性剤	設定なし	記載なし	記載なし
中性消泡剤	設定なし	記載なし	記載なし
無機白色微粉末	設定なし	第3種粉塵 吸入性粉じん 2.0 mg/m <sup>3</sup> 総粉じん 8.0 mg/m <sup>3</sup>	10mg/m <sup>3</sup> (1996年版)
防錆剤A	設定なし	記載なし	記載なし
防錆剤B	設定なし	記載なし	記載なし
防錆剤B	設定なし	記載なし	記載なし
分散助剤A	設定なし	記載なし	記載なし
分散助剤B	設定なし	記載なし	記載なし
分散助剤C	設定なし	記載なし	記載なし

- 設備対策 : ・粉じん濃度を推奨された許容濃度以下に保つために、発生源の密閉化、排気装置  
(局所排気装置、場合により全体換気装置)を付けて、粉じんが滞留しないようにする。  
・取り扱い場所近くには、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
- 安全管理 : 空気汚染物質を管理濃度以下に保つため換気装置を設置する。必要に応じて適切な保護具を着用する。
- 保護具
- 呼吸用の保護具 : 換気が不十分な場合は、適切な呼吸器保護具を着用する。(防塵マスク)
  - 手の保護具 : 適切な保護手袋を着用する。
  - 目の保護具 : 適切な保護眼鏡を着用する。(ゴーグル型又はフェイス型保護眼鏡)
  - 皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣、顔面保護具を着用する。
- 衛生対策 : 取扱い後は、汚染箇所をよく洗う。

### 9. 物理的及び化学的性質

- ・外観 : 灰緑色粉末
- ・臭気 : 特になし
- ・沸点 : データなし
- ・融点/凝固点 : データなし
- ・蒸気圧 : データなし
- ・引火点 : なし
- ・爆発限界 : データなし
- ・見掛比重 : 0.72 g/mL
- ・溶解度 : 水に一部溶解する
- ・揮発性 : なし
- ・発火点 : なし
- ・粘度 : —

### 10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 常温常圧下では化学的に安定である。
- 危険有害反応可能性 : 酸と接すると分解し、二酸化炭素を生じる。
- 避けるべき条件 : 高温、強酸、強アルカリ、強酸化剤との接触、熱、スパーク、火気等の発火源を避ける。  
マグネシウム又は五酸化リンと反応して爆発の危険性がある。
- 混触危険物質 : 強酸化剤、金属マグネシウム、五酸化リン
- 危険有害な分解生成物 : 燃焼の際は、有害な一酸化炭素、二酸化炭素のガスを発生する。

11. 有害性情報

化学名 (成分名)	急性毒性	
	経口毒性	吸入毒性
酸化鉄粉	LD50 5,000mg/kg (経口ラット)	データなし
有機蛍光顔料	LD50 >4,600mg/kg (経口ラット)	データなし
接着剤	LD50 >5,000mg/kg (経口ラット)	データなし
非イオン界面活性剤	LD50 1,700~4,000mg/kg (ラット)	データなし
中性消泡剤	データなし	データなし
無機白色微粉末	LD50 >10,000mg/kg (経口ラット)	データなし
防錆剤A	LD50 >1,200mg/kg (経口ラット)	データなし
防錆剤B	LD50 3,140mg/kg (経口ラット)	データなし
防錆剤C	区分外と推測	区分外と推測
分散助剤A	LD50 2,274mg/kg (経口ラット)	データなし
分散助剤B	LD50 2,800mg/kg (経口ラット)	LC50 1.2mg/L (粉じん ラット)
分散助剤C	LD50 7,334mg/kg (経口ラット)	LC50 >900mg/m <sup>3</sup> (粉じん ラット)

- 急性毒性 (経口) : 区分外
- 急性毒性 (経皮) : 区分外
- 急性毒性 (吸入) : (分散助剤B) 区分4の記載等に基づき、本混合物においては区分4とした。  
吸入すると有害 (粉じん)
- 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分外
- 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : (分散助剤B) 区分1の分類に基づき、本混合物においては区分1とした。  
重篤な眼の損傷
- 呼吸器感作性/皮膚感作性 : 区分外
- 生殖細胞変異原性 : 区分外
- 発がん性 : 区分外
- 生殖毒性 : 分類できない。
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : (分散助剤C) 区分1 (胃破裂) の分類に基づき、本混合物においては区分2とした。  
臓器 (胃破裂) の障害のおそれ
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない。
- 吸引性呼吸器有害性 : 区分外

12. 環境影響情報

- ・ GHS 分類では、水生環境有害性に対しては区分外。
- ・ 漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。特に本混合物や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

水生環境有害性 (急性)	: 区分外
水生環境有害性 (長期間)	: 区分外
オゾン層への有害性	: 分類できない。

化学名 (成分名)	水生環境有害性データ	分解性・濃縮性
酸化鉄粉	データなし	データなし
有機蛍光顔料	甲殻類 (オキミシ) LC50 >100mg/L/48H	データなし
接着剤	データなし	データなし
非イオン界面活性剤	データなし	データなし
中性消泡剤	データなし	データなし
無機白色微粉末	魚毒性 (セブチン酸) LC50 >10,000mg/L/96H 甲殻類 (オキミシ) LC50 >10,000mg/L/24H	データなし
防錆剤A	魚毒性 (メタカ) LC50 95.4mg/L/96H	生分解性は良好。生物蓄積性は低い。
防錆剤B	魚毒性 (Pimephales plomelas) LC50 420-558mg/L/96H 甲殻類 (Daphnia magna) LC50 >100mg/L/96H	データなし
防錆剤C	0.1%水溶液の COD : 520ppm、0.1%水溶液の BOD : 440ppm	
分散助剤A	ヒメタカ 5000ppm 48Hでも致死せず	データなし
分散助剤B	甲殻類 (オキミシ) EC50 250mg/L/48hr	データなし
分散助剤C	魚毒性 (ニシマス) LC50 7,700mg/L/96H	データなし

\* 本製品の分解性データはありません。

